

青森県から北海道へ

氏名 工藤 貴史

青森県むつ市立苫生小学校 → 北海道函館市立桔梗小学校
(期間：平成28年4月1日～平成30年3月31日)

1 青森県むつ市の教育

むつ市の各小中学校においては、校長の強力なリーダーシップの下に、「教育は人づくり」という原点に立って、全教職員が協働して特色ある学校運営の充実を図るとともに、「確かな学力の定着」と「心の教育」を基盤とした「生きる力と夢をはぐくむ」学校教育の推進に努めている。

○ むつ市教育プラン

むつ市の学校教育の推進目標は、「むつ市教育基本構想」に示されている『「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな児童生徒を育成すること』である。

むつ市教育プランは、この基本理念に沿い、山積する教育課題に果敢に取り組み、教育基本法に基づく義務教育制度の在り方により適切に対応していくことを目的に、小中一貫教育を基本とした具体的指針を明らかにしている。

○ 教育プランの重点目標

- (1) 楽しく活力のある学校
- (2) 確かな学力を身に付けさせる学校
- (3) 豊かな心と健康な体を育てる学校
- (4) 信頼される学校

2 学校や地域の特色ある教育活動

派遣元校のむつ市立苫生小学校は児童数579名(28年3月末)の大規模校であり特別な教育的支援を必要とする児童も全校平均8.8%の出現率をもつ。

○ 経営方針

校長の経営方針は、「特別支援教育を学校教育の柱にすえ、一人一人の子のニーズと特性に応じた教育活動の推進」を掲げている。

本校のめざす、子供への合理的配慮とユニバーサルデザインの授業の充実が、一人一人の子供の能力・適正に応じた指導と学習習慣の育成につながり、確かな学力が身につくものとする。

○ 重点的な取り組み

- ・特別支援教育の研修の充実
- ・望ましい学級集団の育成のための具体的手法の獲得 ～授業づくりは学級づくり～
- ・「主体的に学ぶ力を育む学力推進事業」研究指定校としての校内研修の充実

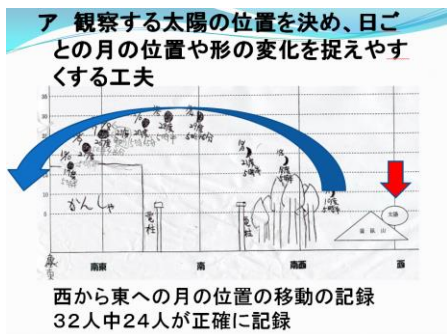
3 私が取り組んできた実践

派遣元校では、主に高学年の担任と拠点校指導教員を担当してきた。在籍中は、青森県総合学校教育センターの小学校理科の長期研究の研究員、校内では校内研修活性化事業の公開授業の授業者として携わってきた。

○ 長期研修では、「月と太陽」の学習において推論する能力を育てる指導法の研究を提案

第6学年「月と太陽」の学習において、推論する能力を育てるために、観察記録とモデル実験を一致させることに着目した。継続して観察記録をとらせること（資料1）によって、観察記録とモデル実験を一致させるための前提条件が整い、さらに、思考の流れに沿った3段階のモデル実験（資料2）を工夫したことによって、児童は、自然の事物・事象に結び付けて推論しながら説明できるようになった。

資料1



資料2



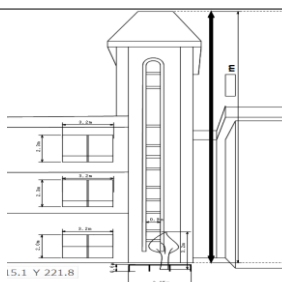
○ 校内研修活性化事業「わかる・できる喜びを実感する学びの創造」を実現する取組

～「学び合い」を効果的に取り入れる工夫を提案した公開授業を通して～

4年間にわたる「弘前大学教育学部との連携による校内研修活性化事業」では、校内研修そのものの深まりと、研修への積極的な関わり方を探究してきた。それらを受け本校では算数を中心に授業改善や評価方法の改善を図りながら、研究協議の活性化を進めてきた。私は4年目の公開授業の授業者として携わってきた。

6年算数「拡大図と縮図」等の授業を通し、学び合い活動を取り入れることで、わからないまま1時間を過ごす児童が減ったこと、また単元末に活用問題を取り入れることで、上位の児童にも学びの喜びが感じられるようになった。

活用問題の提示
縮図から身近な校舎の高さを求める問題を単元末に設定した。



学び合い①（グループ）
一方的に教えるのではなく解決困難な課題を互いに協力して考える場面



学び合い②（一斉）
グループでの話をもとにまとめていく。

